

野外に飛び出せ フィールドワーク “慶應義塾 夏の学校”

秋山豊子（法学部教授）

班員：井澤智浩・志木高校／谷口真也・普通部／片田真一・経済学部（生物）助教／
四宮 愛・法学部（生物）助教／萱嶋泰成・静岡県立大食品栄養科学（外部協力者）
事務局：日吉事務センター運営サービス・酒井秀明／塚本いづみ

目的

この活動は、生徒・学生に野外で動植物にじかに触れる機会を与え、その体験を通して生物と地球環境への関心と理解を育み、未来を先導する人物を育成しようとするものである。



背景

環境問題は、現在地球規模で重要・危急に取り組むべき問題で、生態学のみならず政治・経済・法律などが複雑に絡んだ学際的な問題でもある。塾生は、将来様々な意味でこれら諸問題の対策や解決に関与することになる。そのため、早期から体験授業によって野外で直に野生動植物に触れ、自然の現状を知り、自然の大切さを体感しておくことは非常に有用と言える。この活動は、このような多面的な視野を得る機会として一貫校連携の臨海実習と西表島で行う実習の2つのフィールドワークを計画した。

活動内容

活動したプログラムは以下の2種のフィールドワークである。

1. 一貫校の生徒と大学生による合同臨海実習

（8月16日から18日、横浜国立大学附属理科教育施設；真鶴）



2008年度 一貫校連携臨海実習日程表

月日	7:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	19:00	20:00	21:00
8/16 (土)	7:00-8:00 朝食					(朝食は自分で)	集合 講義 ウニ/マガキの発生 環境調査、プランクトンの採集		入浴 夕食の買い出しと準備		夕食 ウニ/マガキの発生(継続) 講義課題の取り組み (天体観測)		
8/17 (日)	朝食	環境調査と観察課題の取り組み ウニ/マガキの発生(継続)、環境調査 片付け	昼食	海濱おしゃべり、ウニ/マガキの発生(継続) 採集した生物の分類・観察、行動実験、環境調査 片付け	昼食準備			入浴	夕食	発表準備	片付け		
8/18 (月)	朝食	ウニ/マガキの発生(継続) 発表準備・成果発表 片付け	昼食	清掃	片付け	解散							

2. 全学部生を対象とした亜熱帯圏での野外実習

（7月29日から8月2日、琉球大学熱帯生物圏研究センター西表実験所；沖縄西表島）



2008年度 西表島実習日程表

月日	午前	午後	夜間
7月29日 (水)		夕刻 西表島到着	予習のアンケート（問答）解答と解説 講義① 西表島の概要 西島の地形と夜行性生物の観察 星の観察
7月30日 (木)	講義② マングローブ林とその中の生物達について マングローブ林とその中の生物の観察、海岸でのゴミ拾い	マングローブ林とその中の生物達の観察 砂浜とアマモ場の観察 カヌーでマングローブ林の観察	フィールドワークのまとめ 観察したもの記録 自分のテーマの観察記録
7月31日 (木)	亜熱帯林とその中の生物の観察 マリドックの滝 カンピレーの滝	亜熱帯林の観察から帰所。 星砂の浜でシュノーケリングの練習	フィールドワークのまとめ 講義③ 亜熱帯圏の見虫達 夜行性生物の観察
8月1日 (金)	星砂の浜のサンゴ礁の浅いところでシュノーケリング。 魚、サンゴ、サンゴ礁の中の生物の観察。	外礁に近いところ（少し水深の深いところ）でシュノーケリング。 サンゴ礁と生物の観察 実験所周辺の動物の観察	発表 それぞれの観察テーマのまとめと発表
8月2日 (土)	朝食後、解散 (往まで送る)		

公開講座

マングローブ林から
見た環境問題

（琉球大学西表実験所 所長
馬場繁幸教授による講演）



これからの展望

1の一貫校連携臨海実習においては、中学・高校・大学の参加者が自然とともに学び、教えあう状況が見られ、義塾の学塾たる精神が良く反映されていると感じられた。30名位までの定数はあるものの普通部・志木高のみならず、多くの一貫校からの参加を募って行く。また、場所も複数の候補地を用意して巡回的に開催する事を検討し、今後も継続していきたい。

2の西表島実習についても、多くの参加希望者があり、参加者の評価も高かった事から、更に内容の充実に努めつつ継続していきたい。但し、旅費や宿泊費についてはこの基金の補助のような支援を得ることが不可欠であり、安定的な継続のためには大きな課題である。